

■開催概要

- シリーズ : 2023 鈴鹿クラブマンレースRound.2
- 主催 : 熱田レーシングクラブ (ARC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 併催レース : TCR JAPAN SERIES 2023 ROUND 1…主催: 鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : AASC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 後援 : 鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会 (FEクラス)
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2023-2003
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数..... 120台
 フォーミュラEnjoy..... 18台
 CS2..... 15台
 VITA..... 25台
 スーパーFJ..... 22台
 FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2023.....7台
 FFチャレンジ..... 33台
- 開催日 : 2023年5月13日(土)・14日(日)
- 天候・路面 : 5月13日(土)・14日(日) / 雨・ウェット



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2023/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称 : 2023鈴鹿クラブマンレースRound 3
- 開催日 : 2023年7月1日(土)・2日(日)
- 主催 : KRHC、SMSC
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催クラス : FIT 1.5 Challenge Cup、MEC120
- 併催レース : 全日本スーパーフォーミュラライセンス選手権 第7戦 第8戦 第9戦
 Porsche Carrera Cup Asia Round5&6



Round 2は5月13日(土)から14日(日)にかけて行われた。13日昼ごろから降り出した雨は、最後の決勝となったFFチャレンジ(写真)まで止むことはなかった

激しい雨に翻弄された2日間。FFチャレンジやVITAのほか「TCR」、「FR」といったシリーズにも注目が集まった!

2023年の鈴鹿クラブマンレース、2月の第1戦に続いて、いよいよ第2戦が5月13日(土)、14日(日)の2日間に渡って開催された。

今シーズンからカテゴリー名が改称された「VITA」クラス、鈴鹿・岡山地方選手権シリーズとして開催される「スーパーFJ」クラス、昨シーズンからウエストレーシングカーズ製「v.Granz」と同「WEST16C」の混走によって行われている「CS2」クラス、そして33台のシビックが参戦した「FFチャレンジ」クラス、フォーミュラカテゴリーの入口となる「フォーミュラenjoy」クラスが第1戦に引き続いて実施された。

また、2019年から国内で始まった「TCR Japan Series 2023」のRound1も開催され注目を集めた。土曜日に決勝を行う通称サタデーレース、日曜日に決勝を行う通称サンデーレースが行われた。WSC(世界スポーツコンサルティング)が定める市販車をベースとしたマシンを使い、「ホンダシビックTCR」、「アウディRS3 LMS」、「クプラTCR」のマシンが集結。7人のドライバーによる戦いが始まり、猪爪安奈が土曜、日曜と快勝した。

「FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2023」は、全日本フォーミュラ3選手権に代わるシリーズとして、2020年から国内で行われている。すでに富士スピードウェイでRound1(レース1~3)を消化。鈴鹿サーキットでRound2が行われ、レース4・5の2レースを実施。雨による天候悪化の影響を受けたが、レース4は大木一輝が、レース5は小川颯太がウィナーとなった。

2日間にわたって、雨の影響を強く受けることになった鈴鹿クラブマンレース第2戦。第3戦は7月1日(土)、2日(日)に同じく鈴鹿サーキットフルコースが舞台。「VITA」、「v.Granz16c」混走による120分耐久も予定。夏の鈴鹿サーキットから、レースシーンを今年もアツク盛り上げる。



併催レースとして行われたTCR Japan Series Round1。土曜日と日曜日の決勝は猪爪安奈が連勝を飾った

■TCR Japan Series 2023 サタデーラウンド

土曜日に決勝が行われるサタデーシリーズ決勝戦。雨は強くヘビーウェットのコンディションでレースはスタートすると、ポールシッターの猪爪杏奈が好スタート。2番手のHIROBONは序盤のコースアウトも影響したのか、逃げる猪爪を捉えられない。レースは猪爪がポールtoウィンを決めた。



ポールポジションからスタートした猪爪杏奈。一度もトップを譲ることなく見事な勝利となった



1位は猪爪(写真中央)、2位はHIROBON(写真左)、3位は加藤。HIROBONと加藤は2位争いを繰り広げて盛り上げた

■CS2 Class

グリッド上でエンジントラブルのあった車両があり、スタートディレイとなる。これにより1周減算の7周で行われた。ポールポジションは成瀬茂喜、続いて関正俊、上村雅一のグリッド順だ。レースは2番グリッドの関が見事なスタートでホールショットを奪う。上村が続き、成瀬はやや遅れ3番手になる。オープニングラップでコースアウトしたマシンがあり、2周目でセーフティカーがコースIN。その後、関を先頭にセーフティカーランが解除されると、成瀬は上村をパスして2番手に浮上。だが、レースが進むにつれ雨脚は強くなる。6周目を走行中、コースアウトを喫したマシンがあり再度セーフティカーが導入。このまま順位は確定となり関が勝利を収めた。



2番グリッドスタートの関正俊は、抜群のスタートでホールショットをゲット。そのままリードを保ち続けて勝利した



優勝した関正俊(写真中央)。2位は成瀬茂喜(写真左)、3位は上村雅一。成瀬は追い上げを図ろうかというタイミングだったが雨にも阻まれた

■FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2023 Race4

レースは雨の影響からセーフティカーランにより、スタートが切られた。ポールポジションの大木一輝を先頭にして小川颯太、Liam Sceats、Kaleb Ngatooの順に連なった隊列はセーフティカーランのまま3周目へと進行していく。だが、天候悪化が考慮され3周目を走行中、赤旗中断となる。レースは終了となり大木が優勝、小川、Liamとなった。



ポールポジションを獲得していた大木一輝が優勝。結果的に予選の上位順で決勝レースを終えることになった



セーフティカーランのままレースが終了。優勝は大木(写真中央)、小川(写真左)が2位、Liamが3位でレースを終えた

■VITA Class

雨の影響がスタート進行に大幅に影響を与え、セーフティカーが導入されてレースはスタート。ポールポジションは増本千春、続いて武地孝幸、TOMISAN、大八木龍一郎、上岡広之のグリッド順だ。2周目を走り終えたところで、セーフティカーランは解除。残り6周で再開される。トップは増本だが、メインストレートで米田弘幸がクラッシュしてしまったこともあり、再びセーフティカーが導入される。増本、続いて大八木、武地、TOMISANが上位集団で走行を重ねる。レースは5周目を終えて再開。トップの増本に迫る2番手の大八木は、S字で増本をオーバーテイクしてトップへ。レースは大八木が逃げ切り、2位に増本、3位には武地と続いた。



Round1に続いて2連勝となった大八木。セーフティカーランが解除されると、2番手から一気に増本をオーバーテイクしてみた



優勝は大八木(写真中央)となり今シーズン2連勝と好発進。雨でも、その強さを存分に見せつけることになった

■フォーミュラEnjoy class

レースはセーフティカーランでスタート。2周目で解除されると、早くもポールポジションの山崎一平に、2番グリッドの樋尻勝利が迫りテールtoノーズへ。単独で3番手が古里拓、それに東幸夫、マイスターズ・カップのRyuu Maoと続く。山崎と樋尻のトップ争いは変わらず、2台は3番手の古里に10秒以上のタイムギャップを築く。山崎は後半にかけてもペースを落とさずに勝利。2位は0秒764差で樋尻、3位は古里。Ryuu Maoはマイスターズ・カップのトップを順調に走るも、ファイナルラップで一時マシンをスローダウン。これによりマイスターズ・カップは亀蔵が逆転で優勝した。



山崎一平(写真右)がポールtoウィンで勝利。序盤こそ樋尻勝利にテールtoノーズに持ち込まれたが、後半は危なげのない展開だった



1位は山崎(写真中央)、2位は樋尻(写真左)、3位は古里。山崎と樋尻の2台は後続を大きく引き離す走りだった

■スーパーFJ Class

ポールポジションは白崎稜、そして八巻渉、元山泰成、村田悠磨、新原光太郎のグリッド順だ。レースは白崎が好スタートを決めると八巻、元山、新原と続く。3番手争いは元山、新原、小川涼介の三つ巴となる。2周目で白崎は2番手意以降を引き離す独走になるが、セーフティカーが導入される。セーフティカーはその後、解除されてレースは5周目へ。小川は新原をオーバーテイクして4番手へ浮上。トップの白崎は2番手の八巻を引き離しにかけ、やがて単独走行となる。レースは9周目、天候悪化のため赤旗提示により終了。白崎がウィナーとなった。



見事にポールtoウィンを決めた白崎(写真右)。今年、生まれて初めて鈴鹿サーキットを走ったとは思えない堂々とした走行だった



白崎(写真中央)がポールtoウィン。セーフティカーランなど、局面が変わる場面でも落ち着いていた

■TCR Japan Series 2023サンデーラウンド

ポールポジションのHIROBONは、前日のサタデーラウンド2位の雪辱を期したい。だが、前日の勝者である2番グリッドの猪爪杏奈がホールショットを奪う。途中、セーフティカーランもあったが猪爪は完勝。土曜、日曜と連勝してみせた。



ポールポジションからスタートしたHIROBON(写真右)だったが、スタートでやや出遅れたことが最後まで影響を与えた



シャンパンファイトで健闘をたたえ合った猪爪(写真中央)、HIROBON(写真左)、MOTOTINO



■FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP 2023 Race5

レースは小川颯太がポールポジションからスタート。6番グリッドのLiam Sceatsが2番手につける好発進を決めた。小川は早くも逃げ始めると、2番手のLiamと3番手の岩澤優吾がテールtoノーズになる。2周目でセーフティカーがコースINとなり、天候悪化により終了。ウィナーは小川、2位はLiam、3位は岩澤となった。



ポールポジションからスタートした小川颯太。Race4で2位だった悔しさを、Race5で晴らして見せた



ポールtoウィンの小川(写真中央)。ヘビーウェットのレースだったが、着実にポイントを積み上げた

■FFチャレンジ class

ポールポジションは星野宏元、2番グリッドに小川隼太郎、そして住直哉、開勇紀のグリッド順で、セーフティカーランによりスタートした。レースはそのまま3周目を走行、4周目に入ったところで天候悪化により赤旗中断、残念ながらレースは終了となった。結果として、決勝はグリッド通りで着順が決定。星野が優勝、2位は小川、3位は住となった。



悪天候が考慮されて、セーフティカーランのまま終了。ポールシッターの星野が優勝ということになった



1位は星野(写真中央)、2位は小川(写真左)、3位は住というレース結果に

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

スーパーFJ Classでポールtoウィン!

白崎 稜 選手 (TAKE FIRST スタッフリソース)



「第1戦の岡山に続いて、鈴鹿でも勝てて良かった。雨が降ったことは結果としてプラスになった」と話す白崎選手

Q: 雨の影響もあって、難しいレースかと思いましたが見事なポールtoウィン。

「スーパーFJは筑波・富士シリーズを走ってきたので、鈴鹿サーキットも岡山国際サーキットも今年、初めて走ったばかり。鈴鹿での経験がない分、筑波や富士で経験してきたウェット路面での走行時の良いイメージを思い出しながら走りました」

Q: 常に2番手以下を引き離していました。

「前日の予選と決勝では、セッティングを変えずに出ました。上手くはまりましたし、落ち着いて走れました」

Q: 今シーズンへの想いを聞かせてください。

「岡山、鈴鹿と勝てたことは自信になりました。連勝をもっと伸ばして、このままシリーズチャンピオンになります！」